

# 「能く話す父母の子は幸なり」と云ふことに就て

とみ子

此頃某雜誌に、或博士の談話だと云ふて、家庭に於ける談話の幼児教育に大切であると云ふことが書いてありました。一讀如何にも尤もなこと、は思ひましたが、併し、一方に之を過信する結果は單に耳からのみ注入することに因つて教育と云ふものゝ出来る様に思ふ人がないとも限らぬと思ふと何んだか、世の所謂名士と申さるる方々の言説と云ふものが意外な所に餘計な効果を奏する様に考へられて何だか有難迷惑に存せられます。今其御話と云ふものゝ全體を掲げて、一つは此有益な御説を紹介し序に之を過信せぬ様、即ち相當に其効果を收むる様にしたいと思ふことに就いて少し申上げて見ませう。

家庭の談話といふものは些細なる様なれども、國にも家にも大關係ある者なり、祖母が愛孫の爲めに爐邊に物語りする猿蟹合戦、桃太郎遠征

物語は、直に國民の性質を造る者なり。三歳兒の魂は百まで失せず雀百まで躍忘れずとは、眞に不磨の格言にて、幼き時に吹き込まれたる精神こそ、たしかに其人の品性を形造る者なれ。生業に間隙なくして朝より暮まで親子團樂の樂みなきものは、談話の快味を知らず、談話の利益をも受けざる者なれば、かゝる家庭に生長したる小兒の知識は自ら狹隘なる者なり。これに引かへ、家に餘りの時ありて、家内靜かに相語るの機會多きものは、小兒等も自ら色々な事に通する者なり、されば談話なき家庭は、教育なき家庭なりといふも可也。善く語る父母を有する子孫は、眞に幸福なりと謂つべし。

此理を合點したらば、父母たらん人は常に注意して談話の種子を善く置くべし。物に觸れ事に當りて小兒の心を啓發すべき談話を工夫し置き、折を見て之を話すべし。これ造作もなきこととのやうなれども、中々六ヶ敷ものなり、若し教科書など讀み得る人なればこれをたよりにして工夫すべし。新聞雜誌なども談話の種子にな

ること多ければ、心して讀み置くべし。これも唯己れの心を満足する爲に讀まず、小兒に面白からんものを求むべし。人誰か愛子の爲めに衣服を買ひて與ふことを吝むものあらんや。わんや愛子の心を養はんが爲めに、談話を蓄ふるに時を吝むの筈なし。

談話は相互の者なり。聞くものにも自ら話すやうにさせるは、談話の秘訣なり。小兒の爲に談話を蓄へたらば、小兒よりも談話を聞くやうに奨すべし。世間の父母の中には、小兒の話をたはいなき者、うるさき者に思ふて顧みざる者多し甚だしきに至りては小兒に物を尋ねられて憤怒したるゝ其沈黙ならんことを欲する者ありさりながらよく思案すべし。大人には、たはいなき事なり共、小兒には大切なことなり大人には囁語の如く聞ゆるとも小兒には全心を込めたる發明なり。這へば立て、立てば歩行めといふは人の親の心ならずや。此の心を推して小兒の心を推すれば、少許の發明なりとして、小兒だけの發明は褒めて之を奨ますが親たる者の

情に非ずや。されば獨り小兒に談話を聞かせるのみならず、小兒の談話を聞く事は小兒を教養するの道なり。黙坐證心などいふ禪坊主の如きは、小兒に教へずともよろしきことなり。

日本は言魂のさきはふ國として、言語の發達したる國なりと曰はれたれど、中世より儒佛の教入來りて儒教は言に炳にして行に敏なりと教へ、佛は狂言綺語を誡められたれば、口利く事は輕薄者流のすることに思はれて、談話の上手なるは人品を下ぐるやうに言はれたり。されど、こは大きな誤解なり。人若し其の心に思ふ所あれば、言語に現はれざるを得ず。既に言語の上には顯はるれば、成るべく人に分り易き様にしたき者なり。孔子も辭は達すと曰へり。辭若し意を達すれば既に其上乘なり。父母若し幼子に徹透する程語り得ば、父母としての談話は既に十分なり。教育は目より入る者よりも、耳より入る者多し。家庭教育に心ある者、此理を顧みて可なり。

以上某博士とかの御話と云ふものは徹頭徹尾、唯

御尤もとのみ申す可きもので、御説の中にも是が間違であらうと存じます様なことは少しも見當りませんです。私共は出来る丈博士の御説の通り實行の出来る様に心掛けたいと思ひますし、人様にも同様に御勧めしたいと思ひますが、併し、之を若し信じ過ぎて、教育は耳からのみ入れさへすればよいと御考へになる方があるとすれば、それは由々しき僻事であらうと存じます。何故と申しますと昔からも、百聞一見に如かずと申して居る位で、いくら耳から入るものがあつても、若し目から入るものがなかつたならば、それは唯、空な觀念となるばかりで、一寸も實際と關係することがなく、遂には飛んでもない誤つた思想を持つ様になるだらうと存じます。元來、子供の脳中に入つて其資料となり知識の種子となるものは、何も耳ばかりに限つたものではなくて、心理學者の云ふ通り、是は矢張、凡ての感覺を通して入るに相違ないのでありますから、教育者は其積りで子供を指導して行かなければなりません。茲の道理を充分に承知して上の事ならば、前に掲げた某博士の御説は

大に味ふ價值があるものですが、若しさばせずして單に博士の説に呑み込まれて之を過信する方がありとしたならば大なる間違だらうと存じます。

## 個性の研究に就いて

湘 陽 生

此頃個性の研究と云ふことが、我幼稚園保育者の間に一つの流行となつて來た様で大阪方面からは其方法如何と云ふ様な質問が一二飛び込んで來た是は一寸返答に困る質問である。恐くは、斯る問を發する其人と雖も、若し、吾人が眞面目に答へたらば、きつと閉口するに違ひない。何となれば問が餘りに廣過ぎて、之を充分に説明すると共に殆んど心理學の大體を説明せざるを得ぬからである。吾人は斯る問題に熱中せらるゝ人に、先づ「兒童研究に連載せられたる文學士倉橋惣三氏の個性觀察法を讀まれんとを勧める然すれば個性觀察と云ふことが、何んな事であるかと云ふことや、其が直に保育者の參考になるのではなくて、直接に